

令和7年度全国学力・学習状況調査の 結果・分析と今後の取組について

伊賀市教育委員会

1 調査の概要

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、7月31日に文部科学省から公表されました。

調査結果や伊賀市における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等を分析し、今後の取組を以下のようにまとめました。

調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意しながら、本調査結果を教育施策や各学校における指導の充実、学習状況の改善に役立て、取組を進めてまいります。

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年、実施人数

小学校第6学年 590人

中学校第3学年 603人

(3) 調査実施日

令和7年4月17日（木）

(4) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

※中学校理科は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：Computer Based Testing）で実施。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

本年度調査は、上記①と②を一体的に問う。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

① 児童生徒に対する調査

・学校意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

② 学校に対する調査

・学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

2 教科に関する調査の結果・分析

【小学校】

| 平均 正答率 | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----------|------|------|------|
| 伊賀市 | 67 | 59 | 58 |
| 全国 | 66.8 | 58.0 | 57.1 |

※伊賀市の平均正答率は、文部科学省より提供された整数値を公表しています。

◇ 特徴的な傾向

＜小学校国語＞

- 強み： ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。
- ・「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。
- ・「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。
- ・全ての設問において無回答率が、全国に比べて低くなっています。
- 課題： ・「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる」設問にやや課題がみられます。

<小学校算数>

- 強み：
- ・「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。
 - ・「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかを見る」設問が、相当数できています。
 - ・「角の大きさについて理解しているかどうかをみる」設問が、相当数できています。
 - ・ほとんどの設問において無回答率が、全国に比べて低くなっています。
- 課題：
- ・「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や計算を用いて記述できるかどうかをみる」設問にやや課題がみられます。

<小学校理科>

- 強み：
- ・「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現できるかどうかをみる」設問が、相当数できています。
 - ・「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身についているかどうかをみる」設問が、相当数できています。
 - ・「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。
 - ・全ての設問において無回答率が、全国に比べて低くなっています。
- 課題：
- ・「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」設問にやや課題がみられます。
 - ・「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」設問に課題がみられます。

【中学校】

| 平均 正答率 | 国語 | 数学 | 理科 (IRT スコア) |
|-----------|------|------|-----------------|
| 伊賀市 | 53 | 48 | 482 |
| 全国 | 54.3 | 48.3 | 503 |

※伊賀市の平均正答率は、文部科学省より提供された整数値を公表しています。

※IRT スコア：項目反応理論（Item Response Theory:IRT）に基づいて算出されるスコア

◇ 特徴的な傾向

<中学校国語>

- 強み：
 - ・「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」設問が相当数できています。
 - ・「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる」設問が相当数できています。
- 課題：
 - ・「資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。
 - ・「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。
 - ・「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。
 - ・無回答率が高い設問がいくつかみられます。

<中学校数学>

- 強み：
 - ・「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。
 - ・「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」設問ができています。
- 課題：
 - ・「素数の意味を理解しているかどうかをみる」設問に課題がみられます。
 - ・「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。
 - ・「ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明することができる

- かどうかをみる」設問に課題がみられます。
- ・無回答率が高い設問がいくつかみられます。

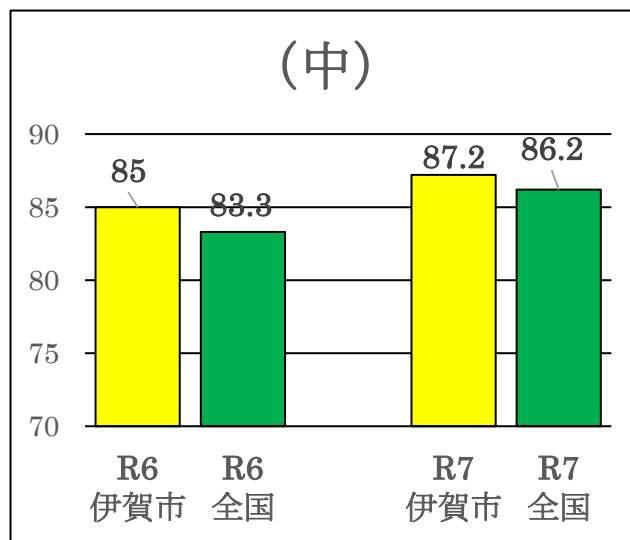
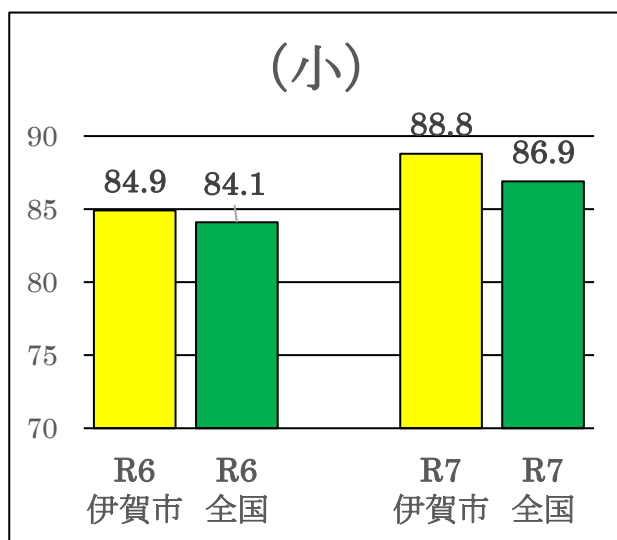
＜中学校理科＞

- 強み： ・「電熱線で水を温める学習過程において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が見に付いているかどうかをみる」設問ができています。
- 課題： ・「塩素の元素記号を問うことで、元素記号で表すことに関する知識及び技能が身についているかどうかをみる」設問に課題がみられます。
- ・身の回りの事象から生じた疑問や問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

3 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

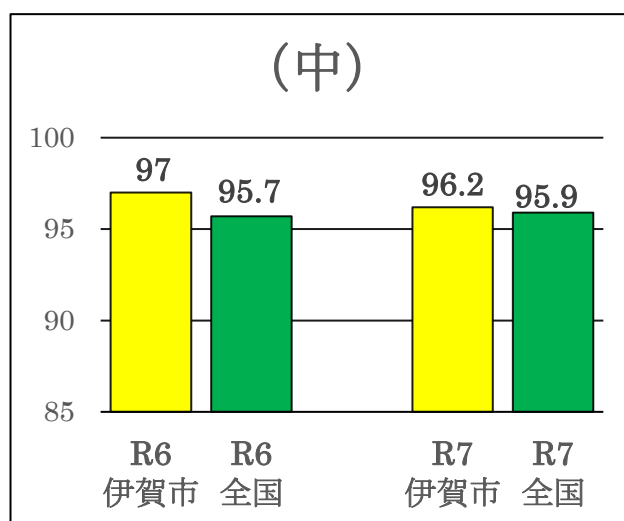
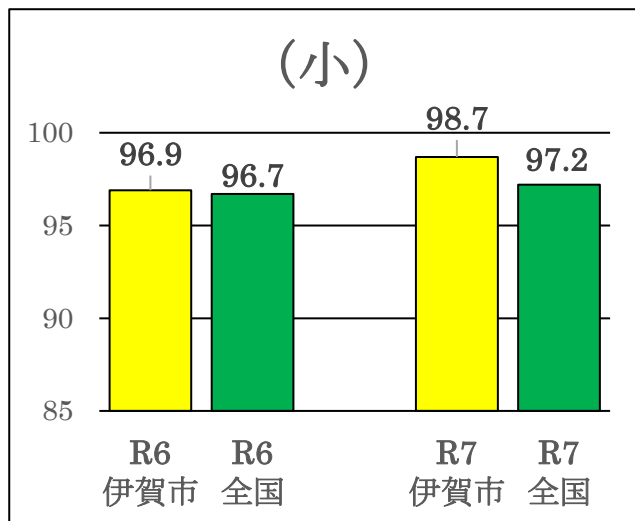
＜児童生徒質問紙の結果から＞

「自分にはよいところがあると思う」と答えた割合（児童・生徒）



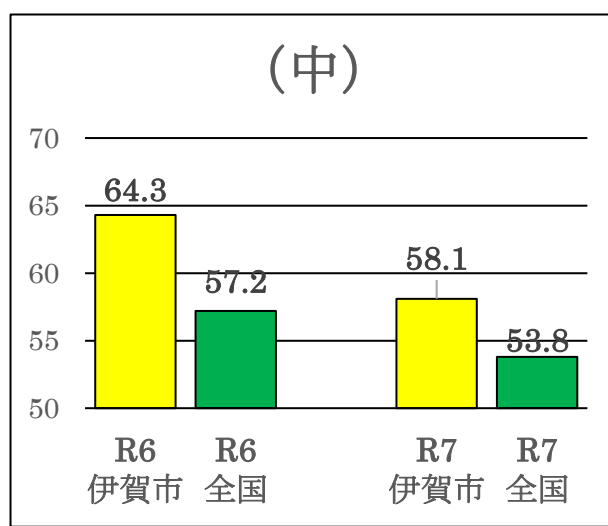
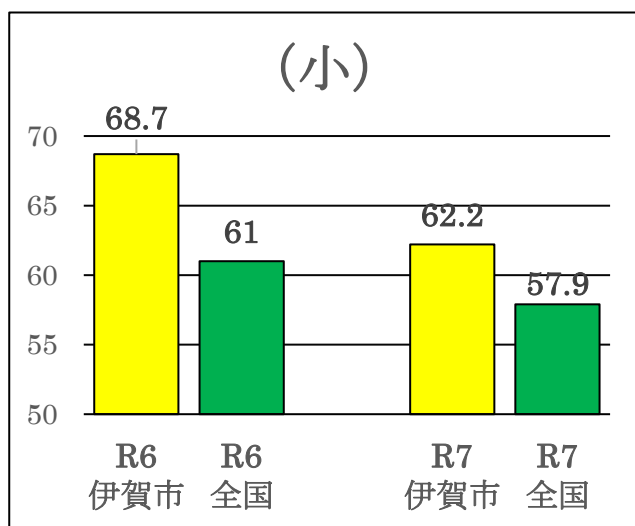
※ 全国と比較すると、小学校、中学校ともに全国よりも高く、昨年度よりも高い数値となっています。自己肯定感が高まることで、学習意欲の向上にもつながることが期待されることから、今後も学校・家庭・地域で連携し、一人ひとりを大切にする取組を引き続き進めていきます。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた割合
(児童・生徒)



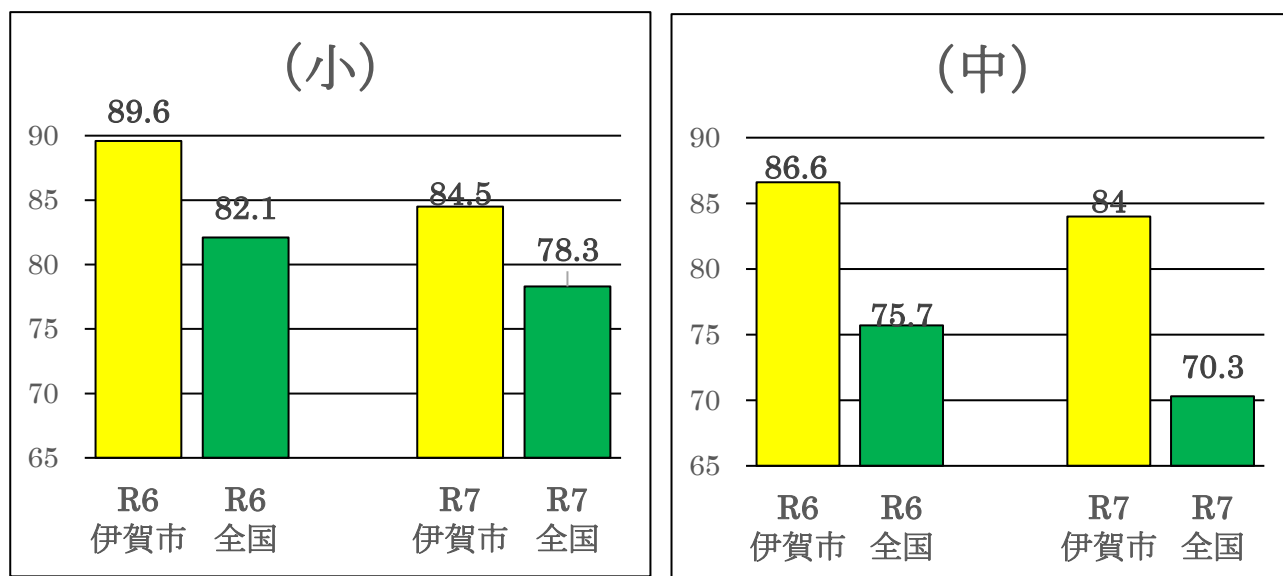
※ 全国と比較しても、小学校、中学校ともに高い数値となっています。すべての児童生徒が「いじめはどんな理由があってもゆるさない」という意識をもてるよう、具体的な場面を捉えて、継続的・組織的に指導を行っていきます。

「算数・数学の勉強は好き」と答えた割合 (児童・生徒)



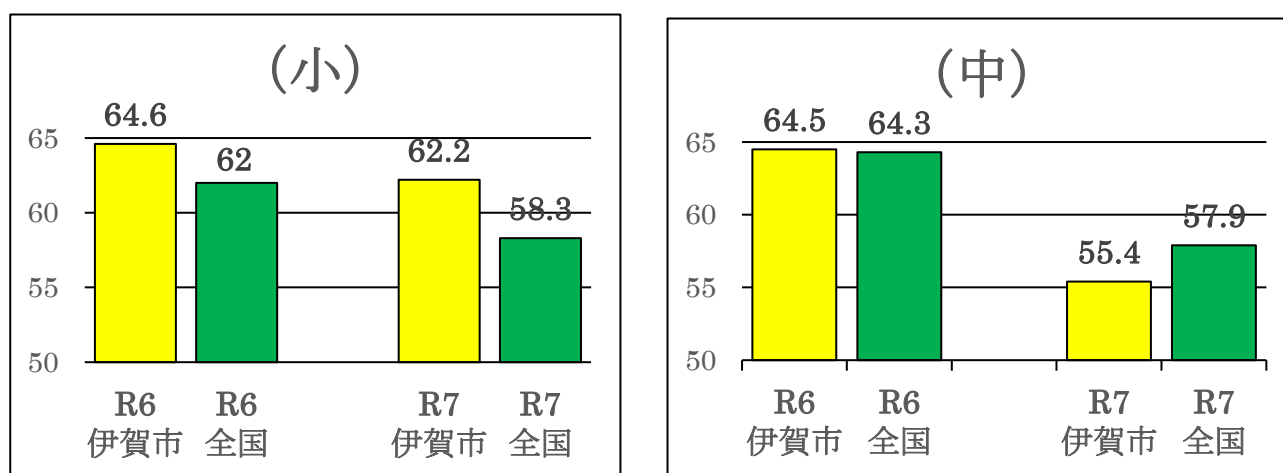
※ 全国と比較すると、小学校、中学校ともに高い数値となっていますが、昨年度よりも小学校、中学校ともに「算数・数学が好き」という割合が減っています。今後も、「勉強が好き」という思いが、子どもたちの学習意欲につながるよう、日々の取組を進めていきます。

「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と答えた割合（児童・生徒）



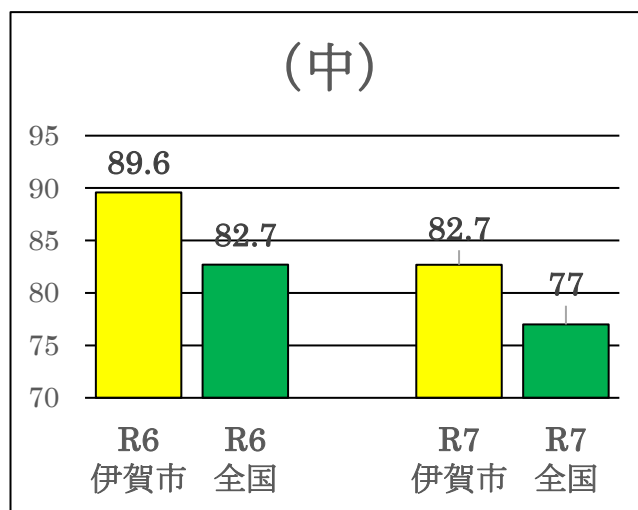
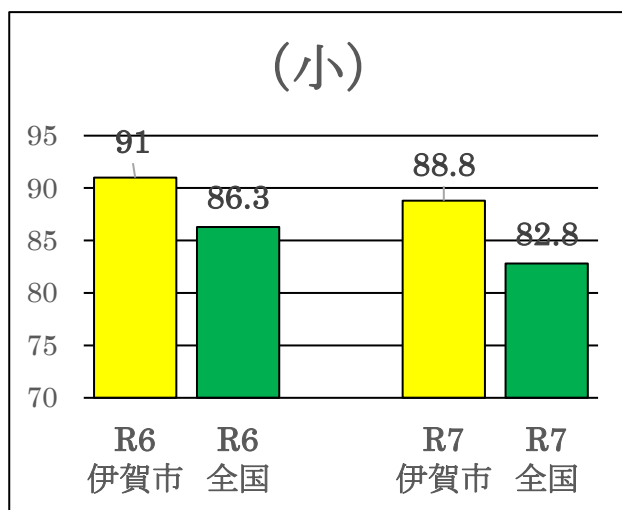
※ 全国と比較すると、小学校、中学校ともに高い数値となっています。「分かった」で終わるのではなく、分かったことを生かして次の課題に取り組むなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、さらなる授業改善の取組を進めていきます。

「国語の勉強は好き」と答えた割合（児童・生徒）



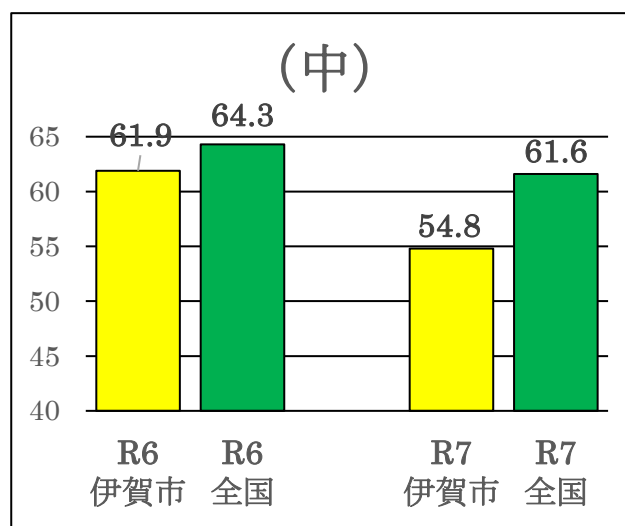
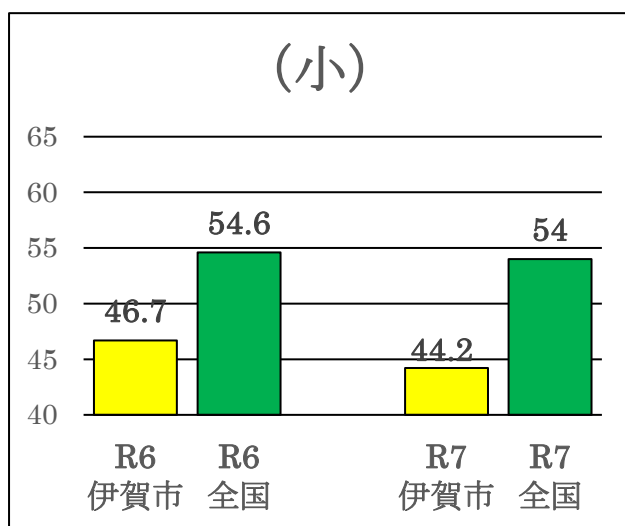
※ 全国と比較すると、小学校は高い数値となっていますが、中学校では昨年度よりも「国語の勉強が好き」と答えた生徒の割合が減っています。主体的に学習に取り組むためにはその学習を好きになることが大切です。児童・生徒が好きになる理由、好きになれない理由を考え、児童・生徒の意識を踏まえて授業改善の取組を進めていきます。

「国語の授業の内容はよく分かる」と答えた割合（児童・生徒）



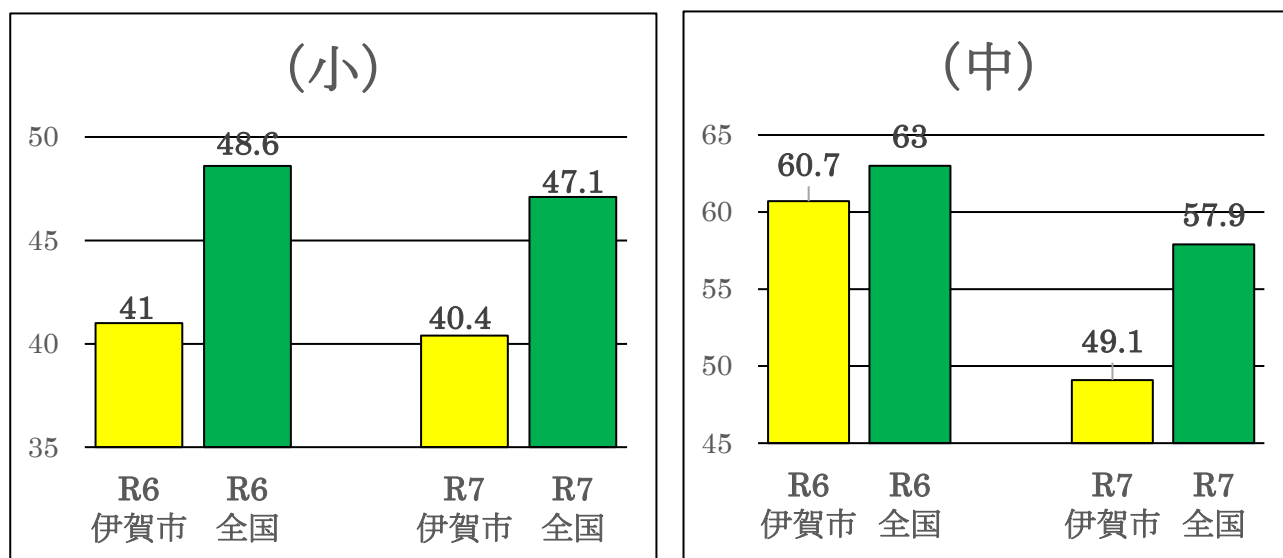
※ 昨年度よりも小学校、中学校ともに「わかる」と答えた割合は少し減りましたが、全国と比較すると、小学校、中学校ともに高い数値となっています。「分かった」で終わるのではなく、分かったことを生かして次の課題に取り組むなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、さらなる授業改善の取組を進めていきます。

「平日に1時間以上家庭学習をする」と答えた割合（児童・生徒）



※ 全国と比較すると、小学校・中学校とも低い数値が続いています。伊賀市の子どもたちは、家庭学習の時間が少ないという傾向があり、大きな課題であると考えています。小学生は『学年×10分以上』、中学生は『90分以上』を目安に、家庭と連携しながら、家庭学習の習慣をつける取組を進めていきます。

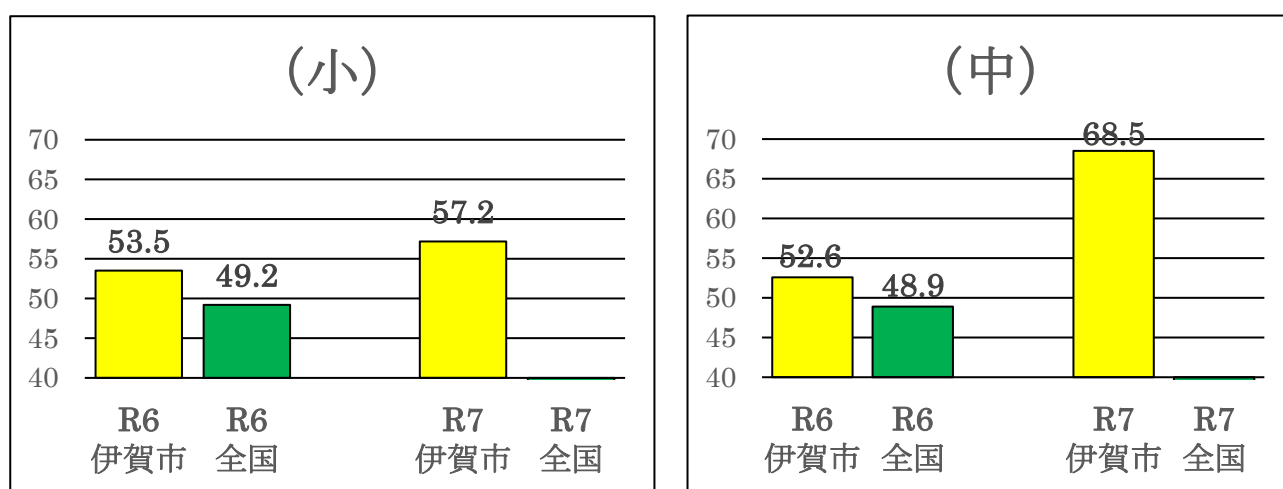
「学校が休みの日に1時間以上家庭学習をする」と答えた割合（児童・生徒）



※ 全国と比較すると、平日の家庭学習の時間と同じように、休日の家庭学習の時間においても、小学校・中学校ともに低い数値となり、昨年度よりも減っています。休日は家庭で過ごす時間が長いため、子どもたち自身が、家庭で勉強する時間や内容について、自分で計画を立て、実行できるよう、家庭と連携した取組を進めていきます。

「普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、テレビゲーム、（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をする」と答えた割合（児童・生徒）

（令和7年度は設問なし。伊賀市の数値は伊賀市追加アンケートの結果）

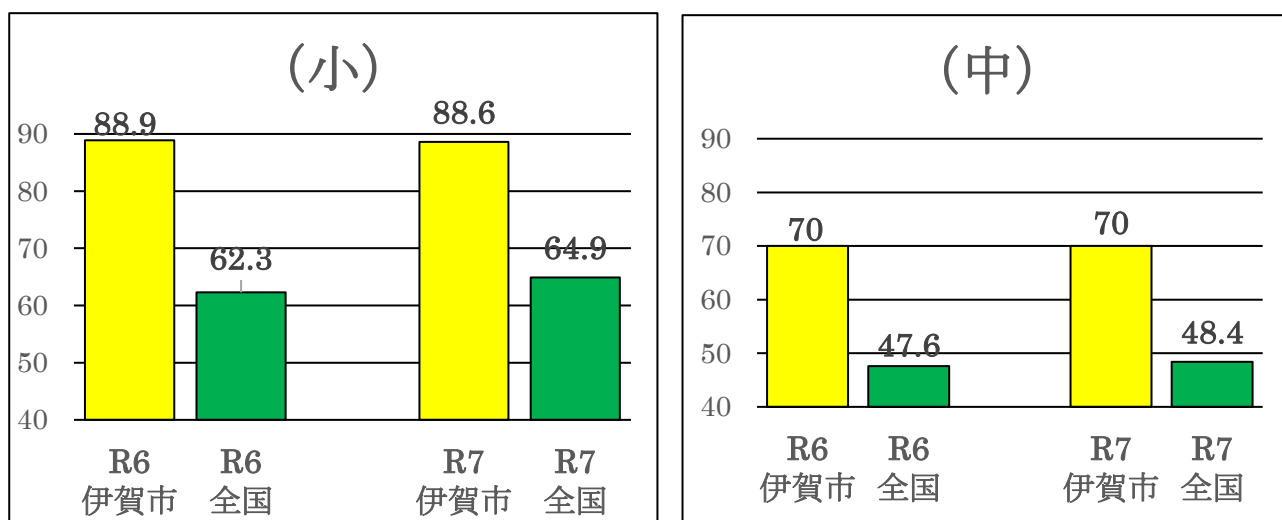


※ 昨年度と比較しても、小学校、中学校ともに高い数値となっています。家庭学習の時間が少ない原因の一つに、テレビゲームの利用時間や動画・SNSの視聴時間が多いことが考えられます。長時間画面を見て過ごすことで健康や学力にも大きな影響を与えます。

ルールや約束を作り、児童・生徒自身が時間の使い方を計画、実行できるように取り組む必要があります。学校ではノーテレビ・ノーメディアデーなどの機会を作り、スクリーンタイムを減らす取組を行っています。今後も家庭と連携を図りながら、時間の使い方についても子どもたちに働きかけていきます。

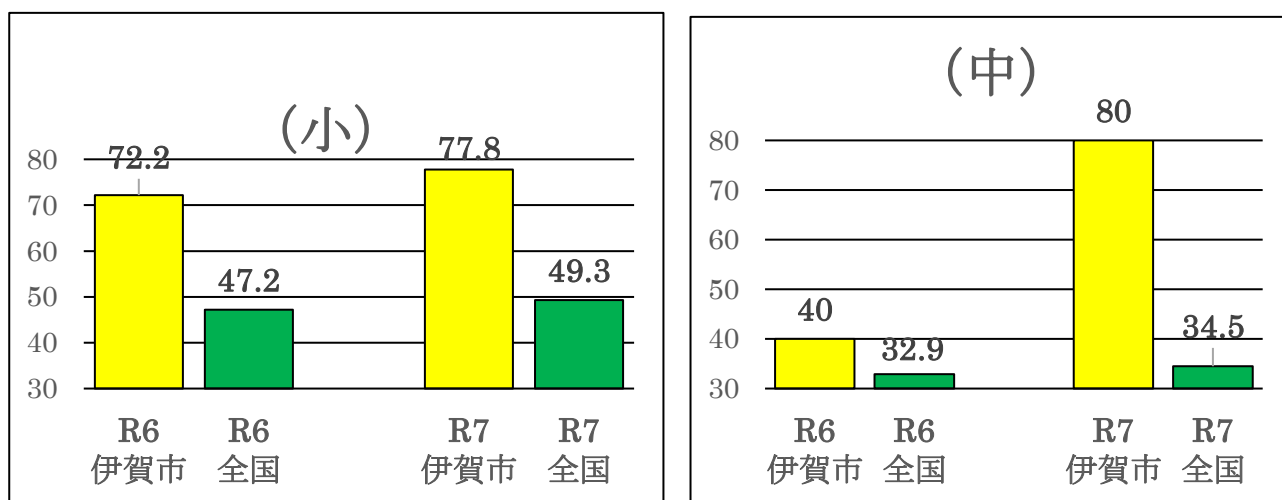
《学校質問紙の結果から》 （学校における教職員の指導・研修等について）

「授業研究や事例研究など実践的研修をよく行った」と答えた割合（学校）



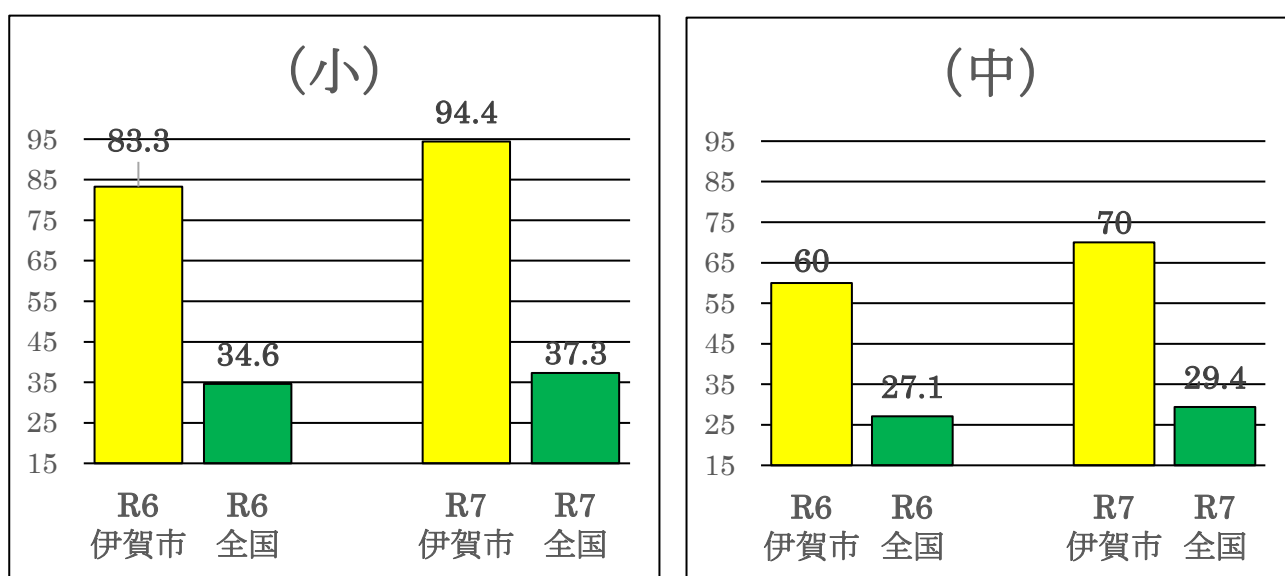
※ 全国と比較すると、小学校、中学校ともに高い数値となっています。各校で学力向上に向けて授業改善、指導力の向上に向けて実践的な研修をさらに進めていきます。

「児童生徒に、家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら教えることをよく行った」と答えた割合（学校）



※ 全国と比較すると、小学校、中学校ともに高い数値となり、特に中学校では大きく改善傾向が見られます。伊賀市の課題である家庭学習の時間を充実させるには、家庭での学習方法や時間のつかい方等の指導が必要です。各学校において、今後も適切な指導を行い、子どもたちがより意欲を持って家庭学習を進められるよう取り組んでいきます。

「全国学力・学習状況調査の自校の結果について学校全体で教育活動を改善するためによく活用した」と答えた割合（学校）



※ 全国と比較しても、小学校、中学校ともに非常に高い数値となっています。全国学力・学習状況調査の目的の一つは、各学校が児童・生徒の学力状況を把握・分析することで、日々の学習指導を振り返り、授業改善に役立てることです。児童生徒質問紙と合わせて分析を行うことで、今後も学習指導や授業改善へとつなげていきます。

4 今後の取組

【伊賀市教育委員会】

- 本調査結果等を活用した指導方法の検証・改善を図るため、各校への指導・助言を行います。
- 教育アドバイザーを学校に派遣し、各校での取組を支援します。授業でのめあての提示と振り返りの徹底、質的向上を進めます。また、めあてが完結できる授業のタイムマネジメント等、基礎基本の定着を図ります。さらに、「主体的・対話的で深い学び」を意識した言語活動の充実を図ります。
- 指導力向上に向け、教育研究センターを中心に教科や課題別の研修会等の充実を図ります。
- G I G Aスクール構想に基づく一人一台端末の効果的な活用を進めるため、事例の共有や教職員への研修を実施します。
- 家庭学習の充実、読書活動の推進に向けて「家庭学習・読書のすすめ」の活用を促進します。
- 各小中学校が、本調査結果等の成果や課題を小中間で共有するとともに、授業や学習規律、生活規律面での系統性を図り、発達段階に応じた効果的な指導ができるよう、小中学校の連携を促進します。

【各小中学校】

- 本調査結果を分析して自校の課題を明らかにし、「学力向上推進計画書」をもとに改善に向けた具体的な取組を全教職員で組織的に進めます。
- 授業での目標（ねらい）を子どもたちにとってわかりやすいめあてとして提示するとともに、それを振り返る活動を徹底します。また、その時間のねらいが達成できるよう1時間の授業をタイムマネジメントします。さらに、基礎基本の一層の定着を図る取組を進めます。
- すべての教科において、課題解決に向けて、子どもたちにまず自分の考えをしっかりと持たせ、仲間と考えを出し合わせ、さらに考えを深めさせる活動を実施します。また、自分の意見や考えを書いたり発表したりする活動を充実します。
- 一人一台端末をはじめ、I C T機器を授業の中に効果的に取り入れることで、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを進めます。
- 校内研修を充実させ、自校の課題に応じた指導改善を進めます。
- 家庭学習の充実・定着に向け、家庭での学習方法等を、具体例を挙げて指導するとともに、与えた課題についての適切な評価・指導を徹底します。また、予習・復習、自主学習等にも取り組むよう指導し、子どもたちが学習したことで成果を感じられるよう工夫するなど、より意欲を持って学習できるよう、家庭と連携・協力しながら学校全体で取組を進めます。
- 子どもたちの学力の保障にむけ、本調査の成果や課題を共有するなどし、9年間を見通した学習の系統性を図り、より効果的な学習指導・生徒指導ができるよう、小中学校の連携を推進します。また、幼児期の学びや生活習慣等が小学校以降の生活や学習の基盤となることから、幼保小の接続・連携に取り組みます。

【保護者・家庭との連携】

- 規則正しい生活習慣や、スマートフォンやゲーム、インターネットの使い方についてのルール作り等、子どもたちが計画的に時間を使い、生活時間を調整できるように、家庭での学習環境の整備に向け、働きかけます。
- 家庭学習の時間について、小学校では「学年×10分以上」、中学校では「90分以上」を目安として、学校と協力・連携し、家庭学習の習慣を定着させるよう働きかけます。
- 読書習慣を身につけるための環境の整備に向け、働きかけます。
- 学校での出来事や将来のことについてなど、家庭での対話を働きかけます。
- 各学校から家庭学習や学力の状況など、保護者・地域に情報を発信し、連携を図れるよう働きかけます。